

底魚資源調査（冬季）を実施しました

水産試験場では、本県沖の主要な底魚資源の動向を把握するため、平成15年から調査船いばらき丸（179t）により年2回（夏季、冬季）の着底トロール調査（オッタートロール）を実施しています。本調査では、本県沖の水深75～450mまでの海域、合計29定点において、15～30分間（速力3～4ノット）網を曳き、面積密度法により現存量を推定しています。今回は令和3年11月から令和4年2月に実施した冬季調査結果についてお知らせします。なお、北茨城と川尻、波崎の合計8地点は荒天により欠測となりました。

1 主要な底魚類の推定現存量の推移

平成23年から今年までの現存量の推定結果を下表に示しました。また、参考として、県で資源評価を行っている魚種については資源水準も記しました。直近5年間の推移から増減傾向を判定した結果、増加傾向にあるのはヤナギムシガレイとエゾイソアイナメ（どんこ）の2種、横ばい傾向にあるのはムシガレイ、アオメエソ（めひかり）、アカムツなど6種、減少傾向にあるのはヒラメ、ババガレイ（なめた）、アカガレイ（赤がれい）など9種でした。なお、アオメエソ（めひかり）とアカムツは前年から大きく増加しましたが（それぞれ53倍と36倍）、過去にも1年だけ推定現存量が高まったことがあることから、今回は前年までの動向を重視し、横ばい傾向と判定しています。その他、漁獲対象とはなっていないトラザメ（ねこざめ）は横ばい傾向、テナガダラ（とうじん）は減少傾向でした。前年調査と比べると、増加傾向の魚種数は変わらず、減少傾向の魚種は1種減少しました。

表 推定現存量の推移（冬季トロール調査）

魚種/年度		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	傾向	水準※	過去10年平均
漁獲対象種	ヒラメ	126	365	448	389	466	310	261	221	247	181	156	減少	中位	301
	ヤナギムシガレイ	52	35	51	30	48	46	37	52	57	32	65	増加	中位	44
	ババガレイ(なめた)	61	101	80	33	73	25	32	39	10	20	16	減少	—	47
	アカガレイ(赤がれい)	449	221	314	84	96	94	66	73	51	85	25	減少	—	153
	マコガレイ(本まこ)	50	45	11	5	6	46	26	25	31	3	6	減少	低位	25
	マガレイ(沖まこ)	16	62	75	26	13	13	5	6	8	0.2	0.0	減少	中位	22
	ムシガレイ	50	89	89	181	162	248	187	416	324	327	406	横ばい	高位	207
	ミギガレイ(にくもち)	102	20	43	26	36	26	56	24	52	41	17	減少	—	43
	ヤナギダコ(水だこ)	400	172	202	119	35	105	122	104	74	102	88	減少	低位	144
	アオメエソ(めひかり)	233	69	24	6	25	14	173	30	28	7	370	横ばい	高位	61
	エゾイソアイナメ(どんこ)			107	73	100	577	347	401	223	1,033	402	増加	—	358※
	マダラ	1,367	322	505	1,104	401	156	68	63	22	7	7	減少	—	402
	アカムツ			0	5	16	1	3	2	3	1	36	横ばい	—	4※
	ユメカサゴ(のどぐろ)			13	10	28	11	32	17	45	11	20	横ばい	高位	21※
	キチジ(あかじ)	108	0	6	25	3	117	102	71	119	72	38	減少	—	62
ズワイガニ(本ずわい)	16	27	17	5	2	22	12	1	4	2	7	横ばい	—	11	
ベニズワイガニ(紅ずわい)	0	11	0	0	0	3	0.4	0.2	0.5	0	0	横ばい	—	1	
参考	トラザメ(ねこざめ)	806	1,863	2,286	2,236	2,739	3,271	1,843	3,183	2,697	3,465	1,697	横ばい	—	2,439
	テナガダラ(とうじん)			2,769	1,177	501	1,154	3,046	3,588	1,582	2,727	2,190	減少	—	2,068※

※水準：「茨城県産重要魚種の生態と資源」(令和3年3月更新、水試ホームページ)で報告している資源水準。—は未評価。
※エゾイソアイナメ、アカムツ、ユメカサゴ、テナガダラは、H25調査から現存量を計算しているため、過去8年平均を記載。

2 アカムツ資源の状況

アカムツは1歳で9～10cm、2歳で15～16cm、3歳で19～21cm程度に成長します。

今回の調査では、全長3～30cmと幅広いサイズのアカムツが採捕されました。全長組成をみると4cm、10cm、15cm、20cm台で高く、異なる年級群がいると考えられました(図1)。中でも4cm前後の個体は0歳魚であると推定され、夏季調査で成熟個体が確認されたことを踏まえると、茨城県沖で孵化したアカムツが採捕された可能性があります。本県におけるアカムツの資源状況や再生産機構について実態を把握するために、今後の動向にも注目していきたいと思っております。

(定着性資源部)

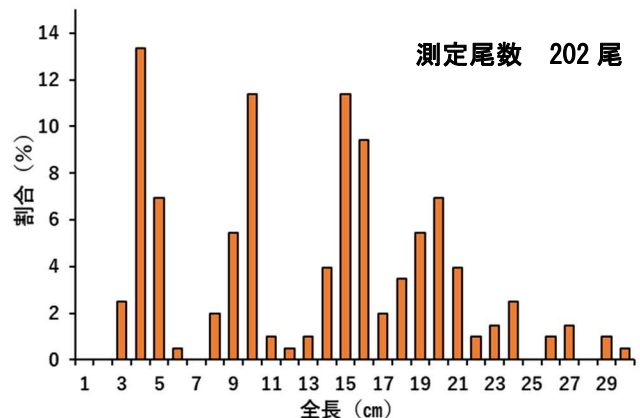


図1. アカムツの全長組成 (令和3年度冬季)

【次回予告】 令和4年4月8日発行の水産の窓は「令和4年度水産試験場組織・主要業務・担当者」を予定しています。